

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

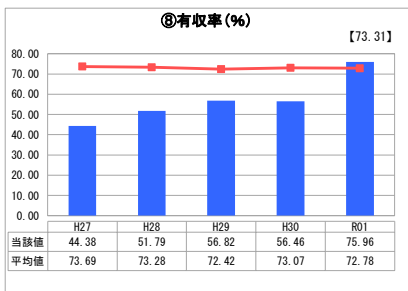
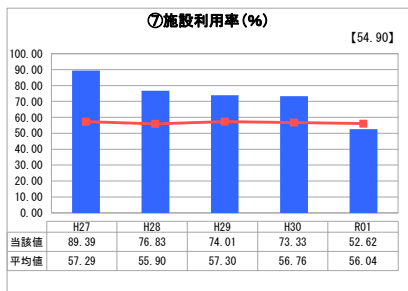
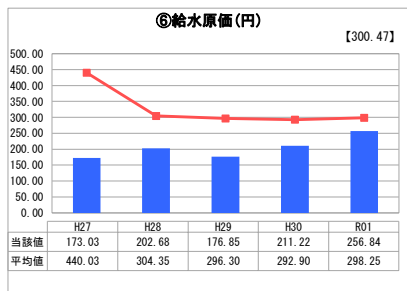
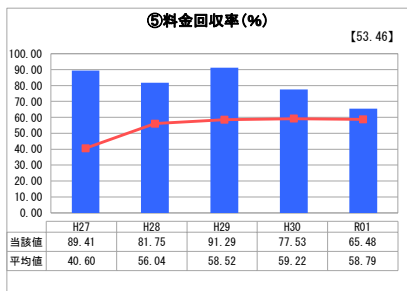
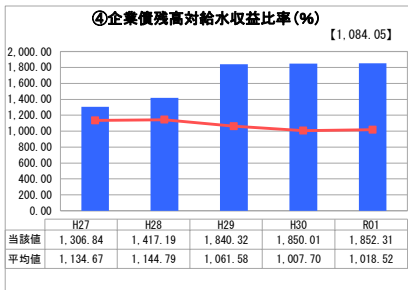
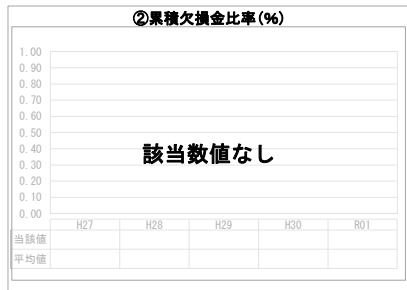
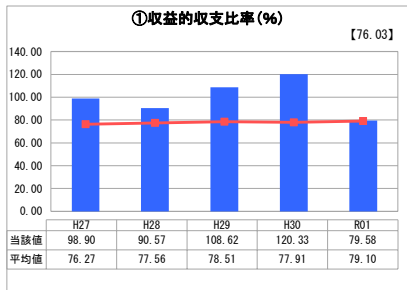
高知県 本山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	84.40	2,680	

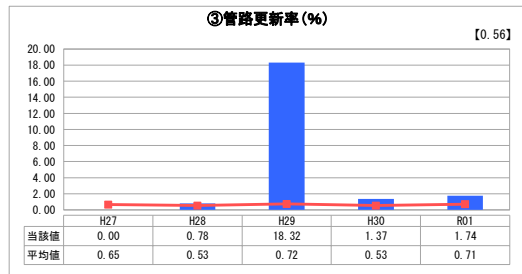
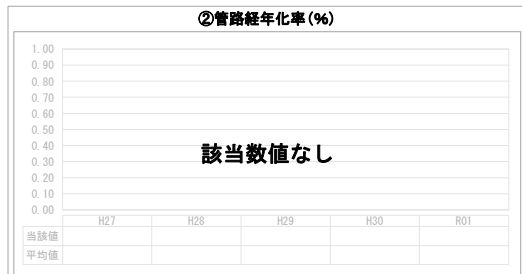
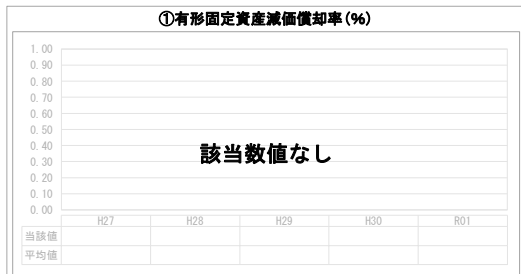
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,477	134.22	25.91
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,910	10.95	265.75

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率については、平成26年度からの水道料金改定に伴い、改善されてきています。また、平成27年度から一般会計からの繰入金もなく、概ね健全であるといえます。

⑤料金回収率については、施設統合事業による事業債償還額の増加により、昨年度より低下しています。

効率性においては、新施設への切替と老朽管の布設が進み、また漏水調査による漏水修繕を実施した事で、有収率が増加しています。しかしながら、依然として布設が進んでいない地域も有り、まだまだ漏水が多いのが現状です。今後、老朽管の布設替工事や漏水調査及び漏水修繕を継続的に実施し、有収率の向上を図っていく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

平成9年度以降に順次更新し、平成24年度からの簡易水道の施設統合では、耐震管を採用し、導・送・配水管を10km強更新しています。平成30年度からは、老朽化した配水管・電気設備等の更新を実施していますが、未更新の地域も有り、順次計画的に更新していく必要があります。

また、災害に備え、管路情報のデータベース化を行い、現状を把握するとともに、引き続き老朽管布設替工事の更新実績に基づいた管路情報の修正と、計画的な管路更新を検討していく必要があります。

### 全体総括

水道料金の改定を行い、収益的収支比率・回収率は大きく改善されてきましたが、今後、人口増加は見込まれず、給水収益の増加が期待できないと考えられます。また、施設統合事業による事業債の償還が本格的に始まると経営状況は厳しくなると予測されます。

安定した事業運営を維持していく為、公営企業会計の法適用化を推進し、管路や施設の更新需要等の将来試算と経営収支の見通しを踏まえ、適正な料金水準の設定を行い、サービス向上に努めていきます。